

正義の関係について考えた

須藤夏樹 医療機関事務職 大学院非常勤講師

本日の中島講師の臓器移植の課題についてのご講演では非常に多くのことを考えさせられた。

私は製薬企業を定年退職後、医療機関に勤めて5年になる。そして医療機関では多くのコンフリクトとして正義と正義のせめぎ合いを見てきた。

昨日のご講演で、レシピエントにとっての移植見送りは許されるものではない。

希望が遠のき断たれることにもなる。レシピエントや家族の立場からはこれは正義となる。

一方医療者側から見ると、移植患者のためにICUや手術室を空けておく訳にはいかない。心筋梗塞や脳梗塞の緊急に対応する患者対応の必要がある。緊急性のある患者を優先して治療し、人的・物質的医療資源を投入することも正義である。

質疑応答で診療報酬の見直しで移植医療に資源を投入する意見があった。移植推進の立場からは正義である。しかしその医療資源を、例えば入院料の上乗せに配分することで、消滅してしまうかもしれない地方の医療機関を存続させることもまた、その地に居住している住民にとっては正義である。極論すれば医療に資源を投入することも正義であり、次世代のために国民皆保険の堅持するために医療費のこれ以上の増大をさせず、患者がある程度の痛みを伴うことも正義であろう。お互いに正義がある。

医療政策の難しさは、多くの分野がトレードオフの関係にあり資源をどこに投入すれば部分最適ではなく全体最適に近づくかの見極めではないかと考える。

そのためには私たち自身が様々な医療課題が存在すること認識する必要があるのであろう。まずは存在する医療課題を認識する。

そのためにも医療ジャーナリズムが存在するのではないか。

各人の立場、考え方によって多くの正義が存在するが、中島講師がお話しされたように話し合い、お互いを少しずつ、理解し、歩み寄っていくことでしか解決策はないのではないかと考える。

私はジャーナリストでもないし意見を発信する立場にもない。しかし、多くの課題の存在を学び、自分の立場から自分自身で最適を考えてみる。そして様々な意見を聞き、多くの方とディスカッションすることでお互いに納得できる考え方・方策に歩み寄っていくことが必要なのだろうと考えた。

昨日は講義の前の質問コーナーのときから、いや資料を前もって読んだ時から、正義について考えさせられた。

このような機会を頂き有難うございました。とても勉強になるご講義でした。